

Circle Story of Meiji University

▶▶▶▶▶ 「楽農」4Hクラブ

サークル名の4Hとは、全国青年農業者クラブ連絡会から「Hand」「Head」「Heart」「Health」の4つの英単語の頭文字をとって名付けられたものです。実際に手で触れ、頭を使って考えながら日々圃場と向き合い、心を込めて育てることで身体を健康にする。私たちがそのような農業を体験することを目

楽しみながら農業をする

明治大学には「黒川農場」という豊かな自然を最大限に活かした総面積12万㎡以上の農場が神奈川県川崎市にあります。黒川農場は、学生が農業を学ぶためにはこの上ない施設ですが、農業実習を受講することができるとはほとんどが1年生の期間のみで、頻度としては一週間に1回程度です。私が入学してから抱いた唯一の不満は、農業実習、野外授業が想像していたよりも少ないという点でした。そんな時、友人のサークル選びに付き合っ、出会ったサークルが4Hクラブでした。

授業だけではものたりない

明治大学には「黒川農場」という豊



生明祭での出店風景

空飛ぶキュウリをつくるため



圃場活動の様子

指しています。4Hクラブでは週に1度、生田キャンパス内にある圃場をお借りして、農作業を行っています。農作業を行うサークルとしては明治大学で最大級の規模です。季節に応じて様々な野菜を栽培し、時には部員みんなで食べることもあります。昨年の夏、圃場で育てた野菜は、トマト、ナス、ピーマン、オクラなど夏野菜だけで15種以上の品目で、ほとんどの野菜は満足できる形で収穫することができました。しかし、多くの野菜を栽培していれば、失敗することも少なからずあります。例えば、トウモロコシを栽培した際には、アワノメイガの幼虫が雌穂(子実になる部分)中に侵入していました。一見すると中に害虫が潜んでいることなどわからないのですが、実を包んでいる苞皮をはぎ取ってみると大量の虫が隠れていました。いくつかの対策を取りましたが、一番効果的な対策は、皮をそっと剥いてアワノメイガを1匹1匹ピンセットでつまんで捨てていくというかなり原始的な方法でした。その対

「楽農」4Hクラブ

私たち「楽農」4Hクラブ(以下、4Hクラブ)は、楽しみながら農業を「体験」「学習」することを目的として活動している農業系サークルです。創部されたのは2000年とまだ新しく、比較的歴史の浅いサークルですが、創部当初と比べて社会の農業に対する関心が高まり、それに比例して多くの部員が入部するようになりました。現在の在籍者数は150人を超えています。部員それぞれが農業に興味を持ち、教室の中だけでは得ることのできない、貴重な「体験」「学習」を通して、農業に関する興味関心を深めています。

農学部2年 山崎 悟

「楽農」4Hクラブインフォメーション
公式HP : <http://www.isc.meiji.ac.jp/~meiji4h/>

Circle Story of Meiji University

▶▶▶▶▶「楽農」4Hクラブ

策が功を奏したのか、トウモロコシは全滅せず、いくつかは順調に育ち、収穫することができました。大学の農業実習では、多くを学ぶことができませんが、教えられたとおりに行動するだけではなく、自分たちで考えて1から野菜を育てていくという事はサークルでしか体験できないと考えています。非効率的だと思われるかもしれませんが、サークルとしては農業を楽しむことを目的としているので、それで良いと思っています。

4Hクラブでは、農業以外の活動も行っていきます。隔週で行われる勉強会では、部員同士が興味のあることを持ち込み、みんなの前でプレゼンテーションするというものです。発表者は交代制で、基本的には農業に関するテーマを選ぶのですが、中にはコーヒーのおいしい淹れ方やミカンの魅力、漫画「銀の匙」をモチーフにした題材を勉強会のテーマに選ぶ人もいます。堅苦しいものではなく、担当者は聴講者に新たな発見があるよう、創意工夫して勉強会を企画し、部員同士がお互

参加した初日にお聞きした言葉ですが、好き嫌いが多かった私の心に付き刺さりました。この日以降、食卓に出されたものはすべて残さず食べるように意識し、嫌いな食べ物は減りました。正確に言うと、自分の好き嫌いがどうでもよくなりました。食べ物がそこに並ぶまでの苦労と営みに自分も少し関わることができたからです。ワーキングホリデーは農作業体験以外にも農家の方の生の声を聞くことができる非常に有意義な体験です。

地域の方々と交流

地域の方々と連携し、交流を深める活動も行っています。例えば、黒川農場近くにあるJAセレサ川崎と連携し、子供たちの水稲栽培体験の支援や、川崎市女性農業担い手のグループである「あかね会」の皆さんとの料理などです。地域の方々と共に活動することで、お互いの刺激になり、新しい発見もありました。

毎年開催される生明祭では、直売所の出店と屋内での展示を行っています。

あかね会での料理教室



子供たちとの水稲栽培体験

水やり



ワーキングホリデーにて

いを刺激し合い、知識を高めあつていきます。

ワーキングホリデーでの体験

4Hクラブでは毎年8〜9月の間にワーキングホリデーに参加しています。ワーキングホリデーとは、農繁期の手助けを必要としている農家のお宅へ私たちが出向き、労働力を提供する代わりに貴重な農作業体験とおいしいお食事をいただく、という交流型援農ボランティア制度です。私は、一昨年の夏は長野県飯田市に、昨年の夏には福島県喜多方市の農家のお宅にお世話になりました。4日間という短い期間でしたが、どの方も初対面の私たちにやさしく接して下さいました。飯田市の農家では果樹を、喜多方市の農家では有機農法を扱っており、大変貴重な体験をすることができました。その中でも、とても印象に残っている言葉があります。「食料は食べるものと作るものがあるが、文句が多いのはいつも食べる方だ」。食について考えさせられる言葉です。初めてワーキングホリデーに

直売所では、基本的にはワーキングホリデーでお世話になった農家の方々からいただいた野菜を出品しており、多くの方に購入していただいています。お客さんから劳いの言葉をかけてもらうことや、毎年野菜を買いに来てくれるお客さんとの出会いなどを通して、地域の方々と交流の大切さを改めて認識することができます。また、屋内で展示するサークルの活動内容をまとめた作品は、昨年の生明祭の「地域連携部門賞」を獲得することができました。

このように、4Hクラブは地域の方々に支えていただきながら活動しています。支えあいながら活動するという事は、楽しみながら農業をするということに通ずるのではないかと私は思います。冒頭でも記したとおり、農業に関心を持つ学生の人口の増加に比例して4Hクラブでは部員を着実に増やしています。地域の方々と交流を深めつつ、「楽しく」農業を学んでいくために、楽農4Hクラブでは今後も一層、活動の幅を広げていきたいと考えています。